12
533

東京明米株式高低

鈴木半三郎編

元

帝國圖書館藏

始

東京期米株

目録

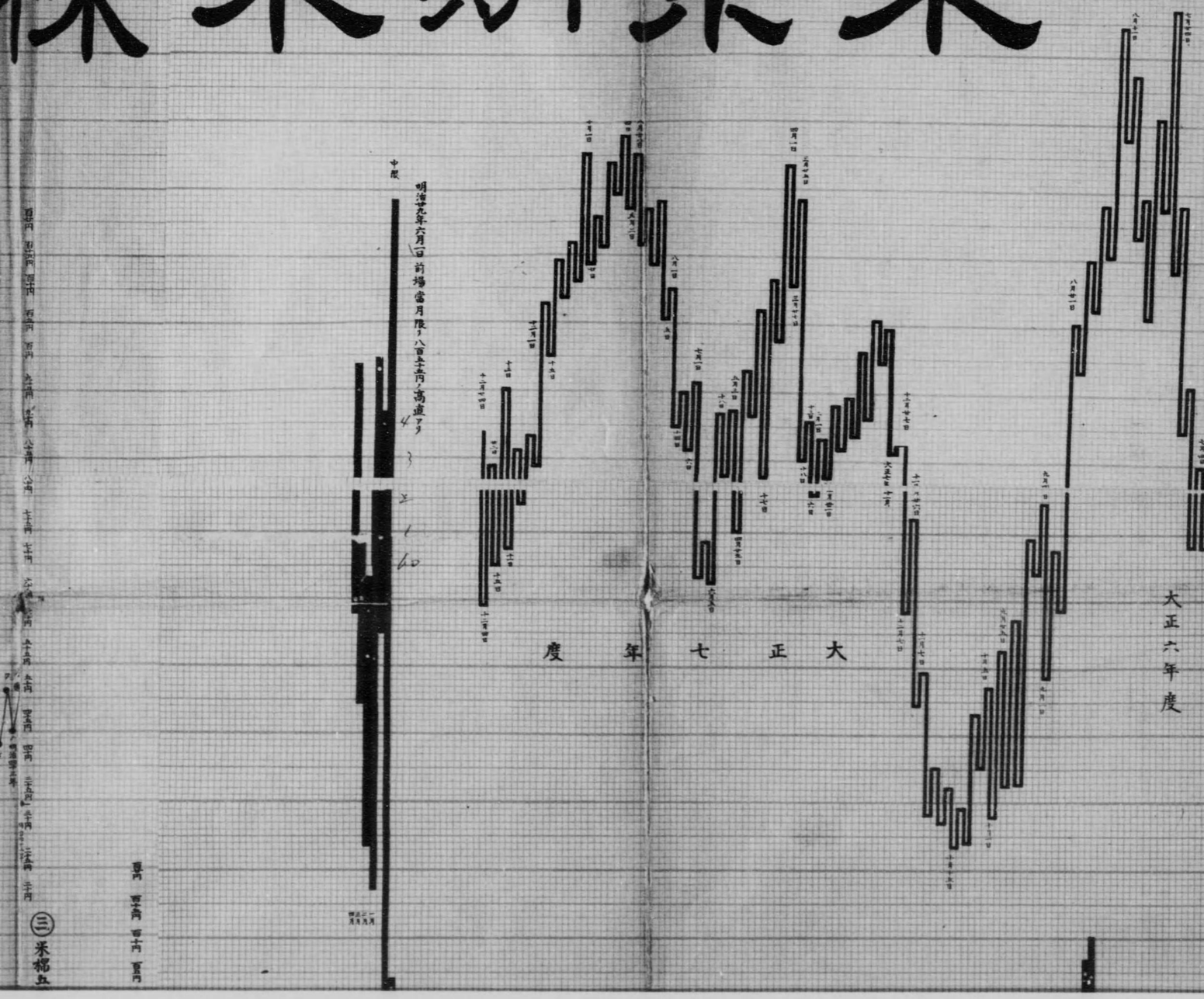
上の部

中央の部

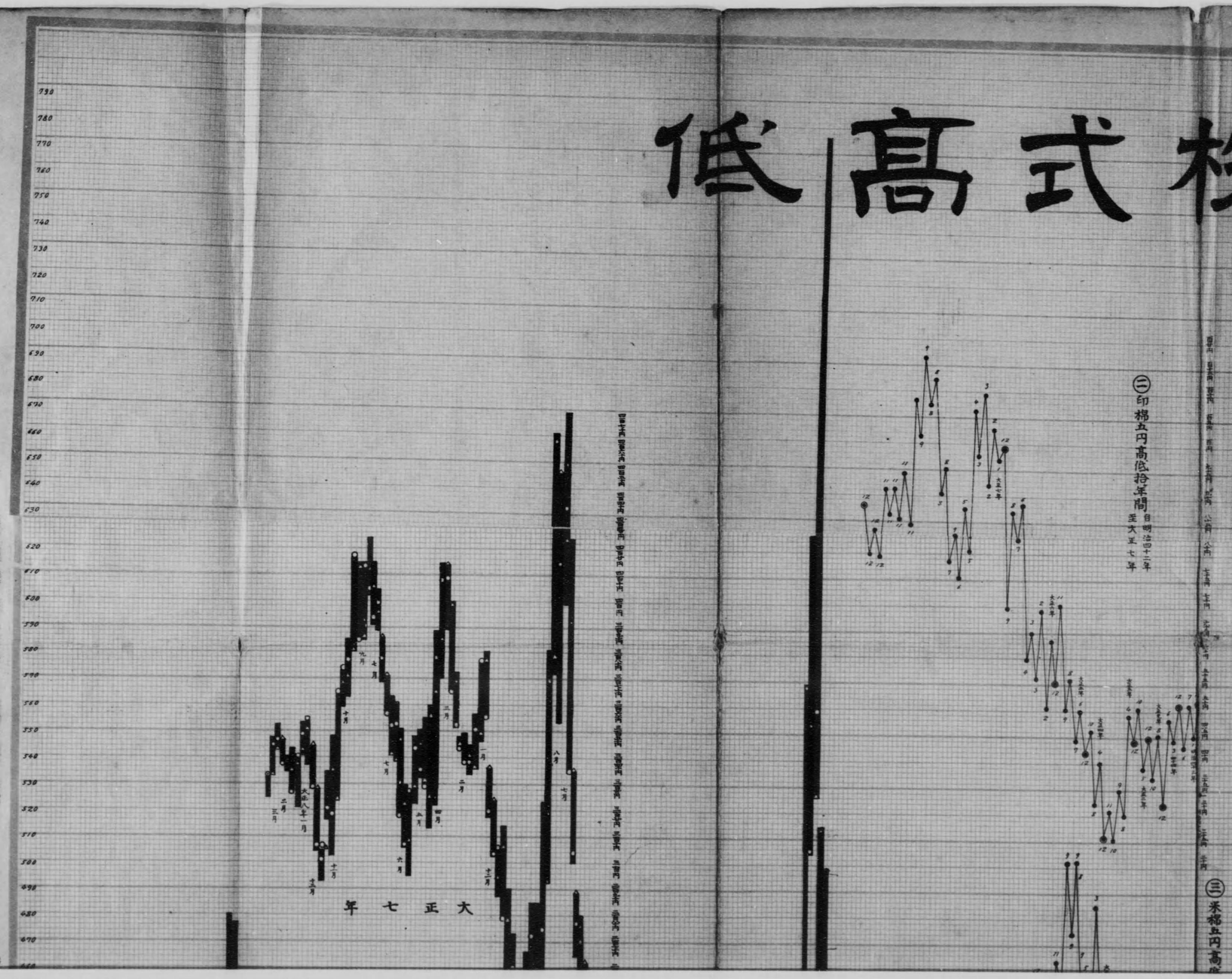
下の部

㊀大阪三品綿絲拾円高低
㊁印棉五円高低
㊂米棉五円高低
㊃東京定期綿絲十日高低
㊄東京株式取引所株式毎月高低
㊅東京株式取引所利益配當率
㊆東京株式取引所資本金增資年度
㊇東京株式取引所株式毎年の高低
㊈公債の高低
㊉通貨累年の比較
㊊貿易輸出入超過の比較
㊋東京電燈株式會社株式高低
㊌日本郵船株式會社株式高低
㊍鐘ヶ淵紡績株式會社株式高低
㊎東京定米作一段
㊏米作付反
㊐關戰以來
㊑正米及
㊒人口一人
㊓正米及定
㊔人口統計
㊕東京瓦斯
㊖輸出入米
㊗米作收
㊘麥作收
㊙期米の
㊚深川庫
㊛期米天

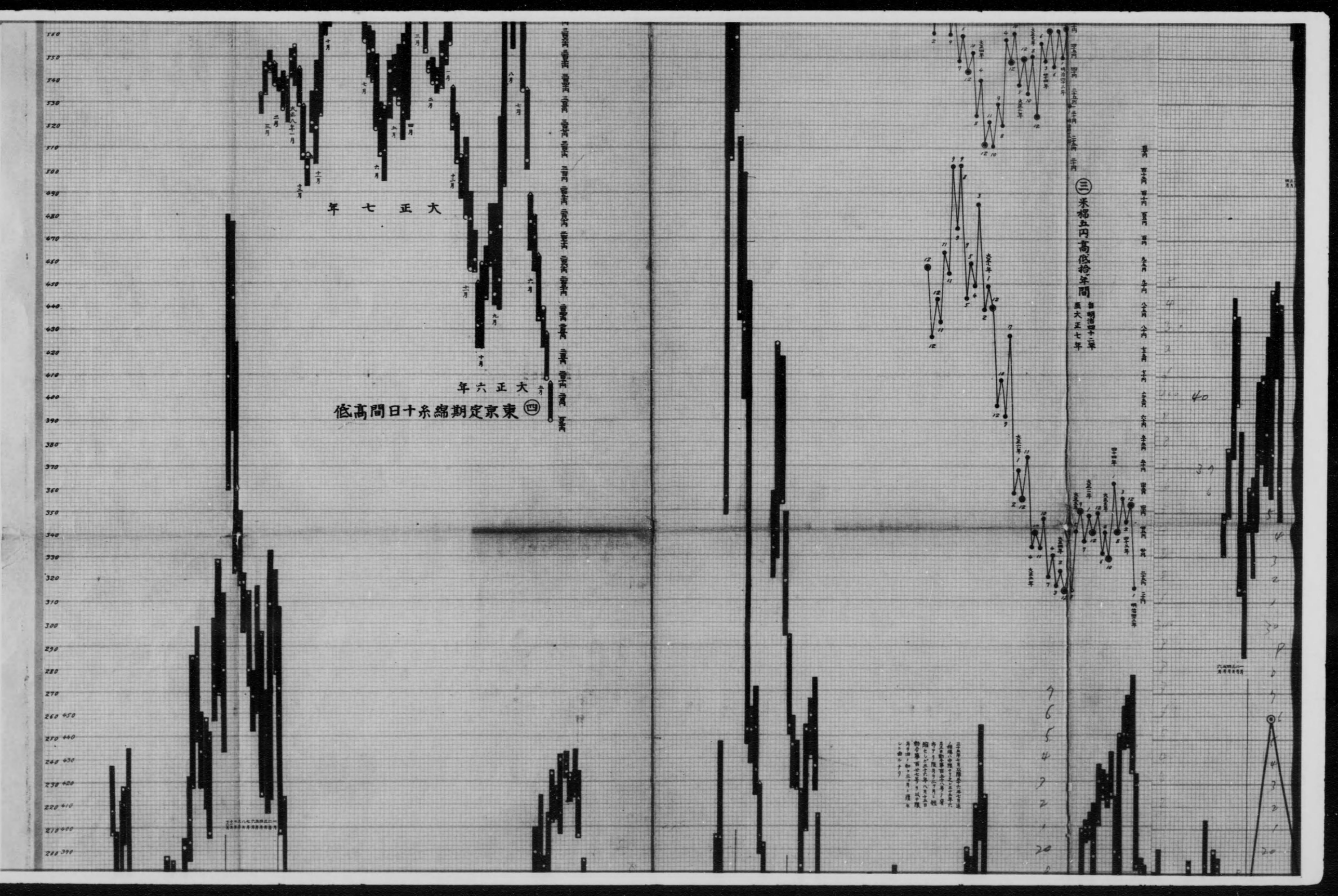
㊀大阪三品定期綿絲拾円高低拾ヶ年間 自明治四十二年 至大正七年

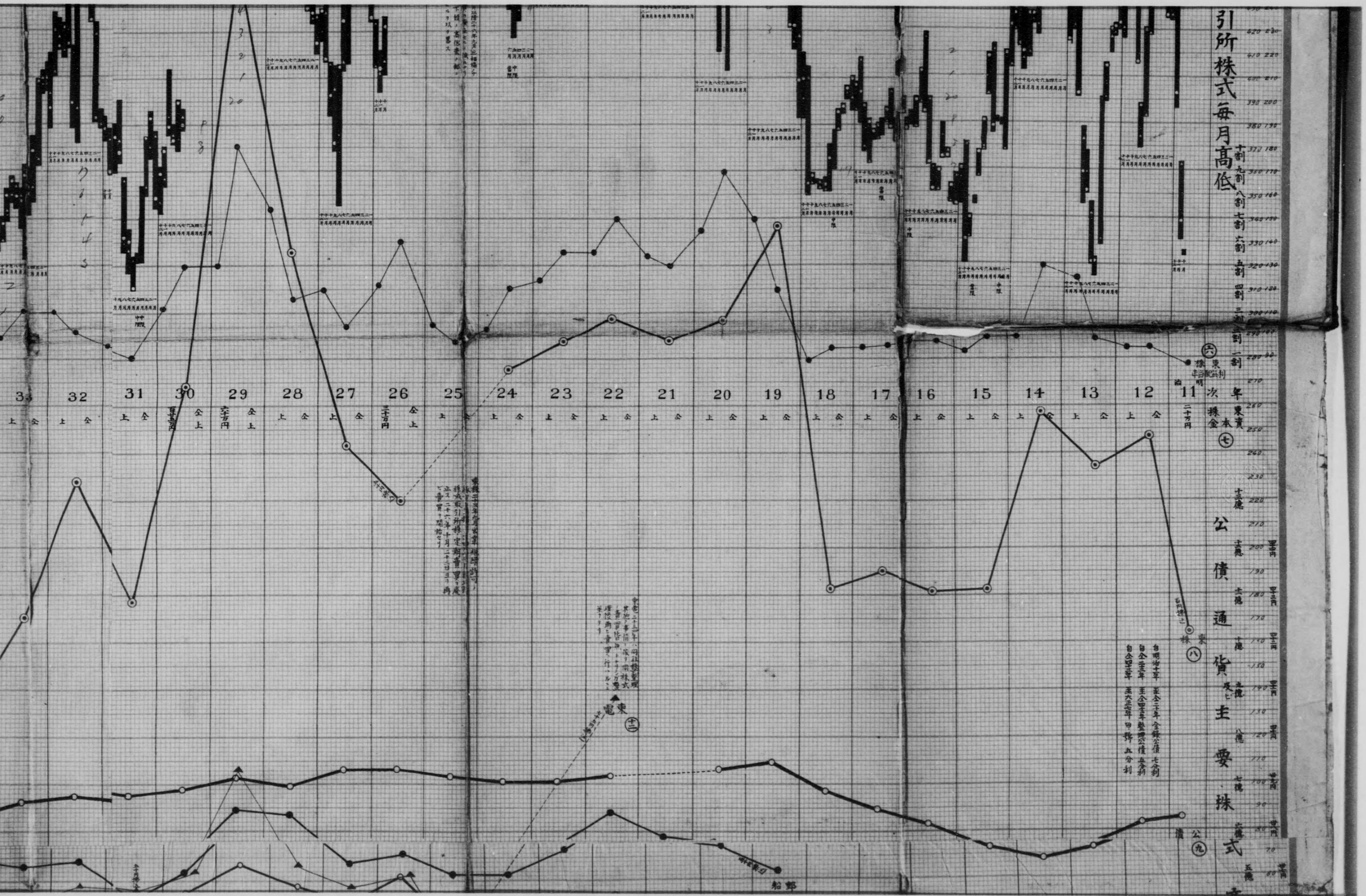


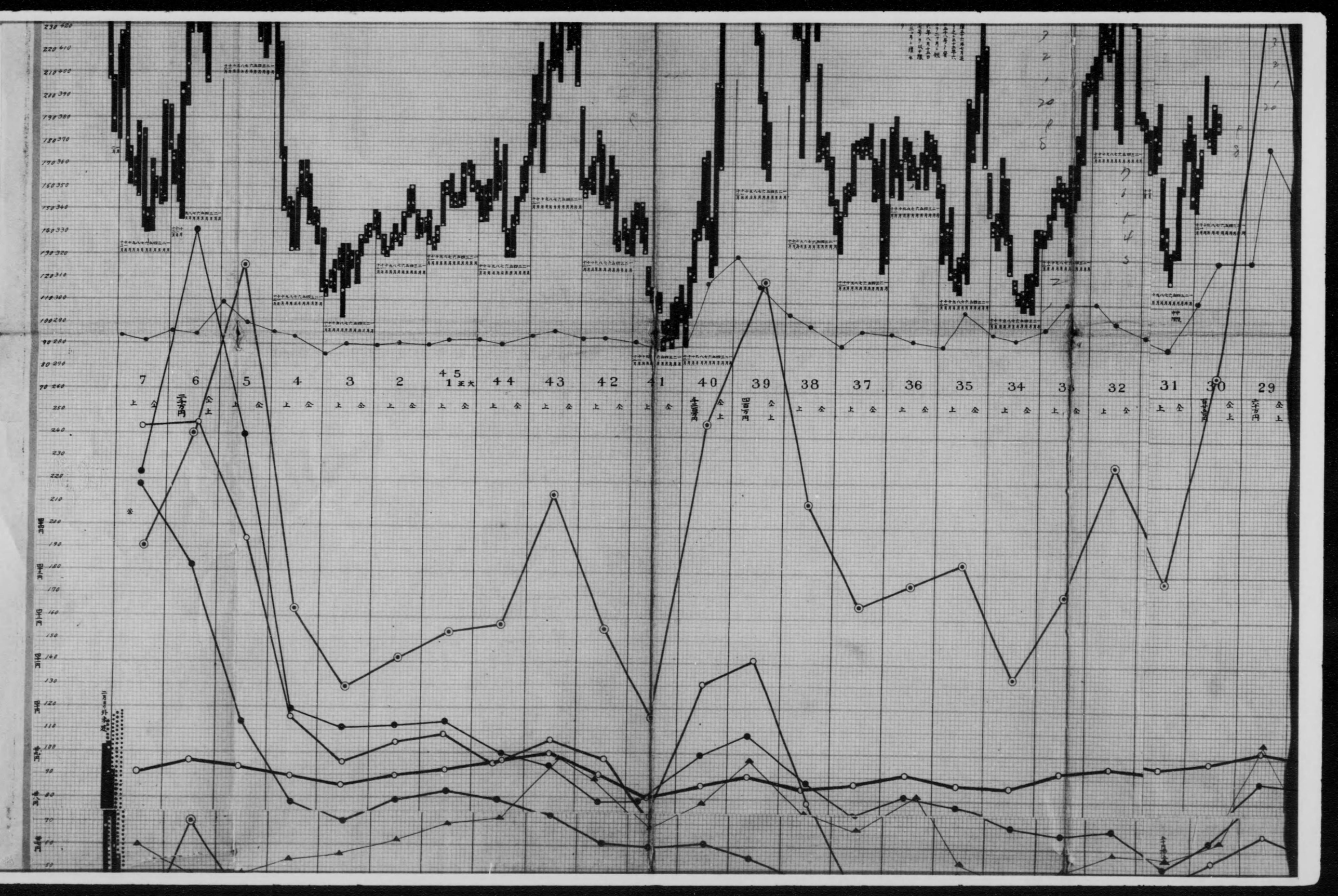
米株式高低



㊄ 東京株式取引所株式毎月高低
㊂ 米価五円高低拾年間 自明治四十二年 至大正七年
高低
下の部
(十五) 東京定期米先限毎月高低 (期米一代最終高低 (正米の高低
米作一段歩の収穫高
米作付反別
開戦以来物貨騰貴割合
正米及定期米の年足比較
人口一人に対する米作収穫比例
正米及定期米の高低比較
人口統計累年の比較
東京銀行公債の利息
輸出入米超過の比較
米作収穫高比較
麦作収穫高比較
期米の主なる原動力
深川庫入米及年米現在高
(廿九) 期米天底月の比較

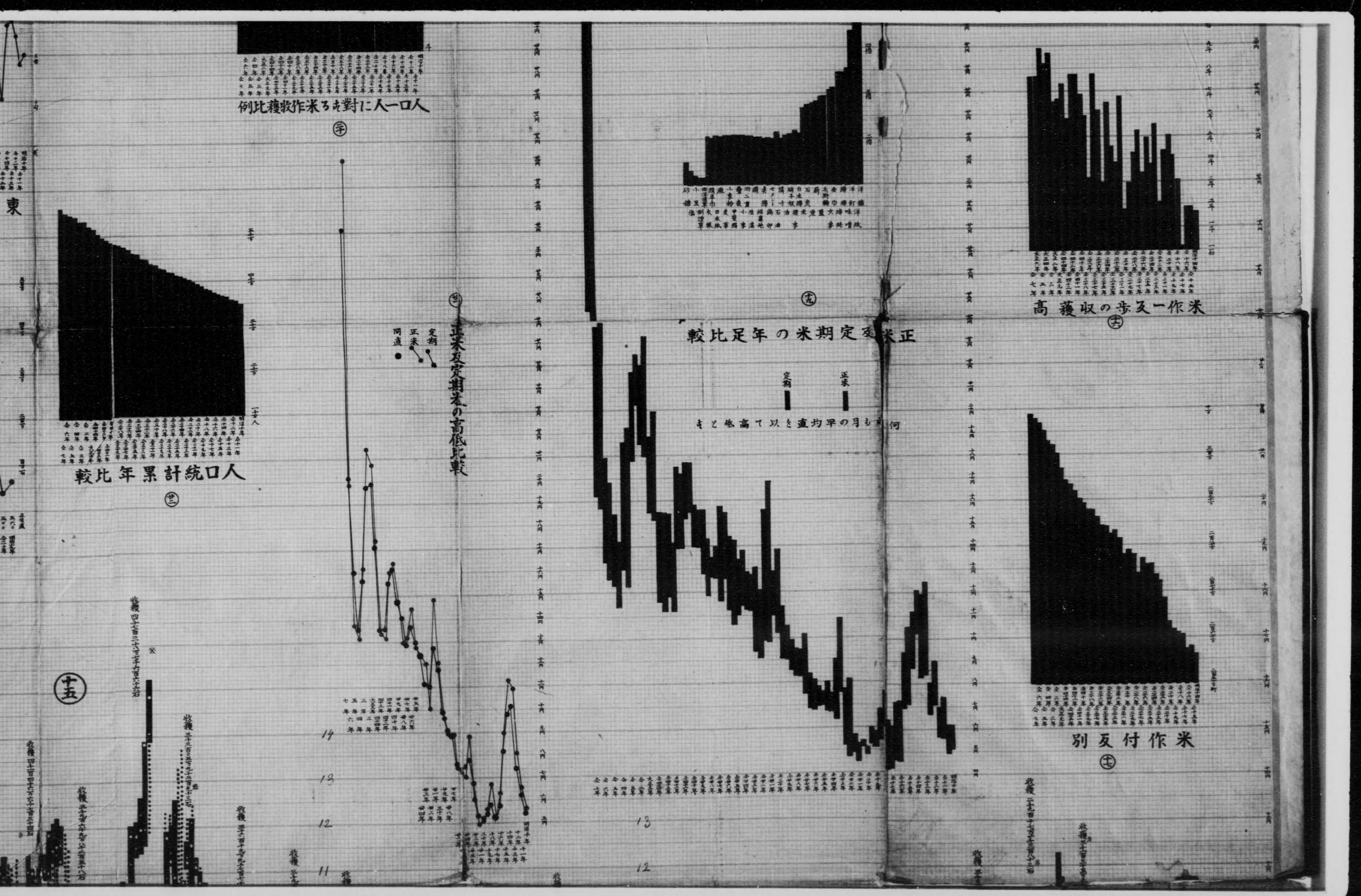

大正七年
大正六年
四 東京定期綿糸十日間高低
三 糸綿五円高低拾年間
明治四十二年
大正七年

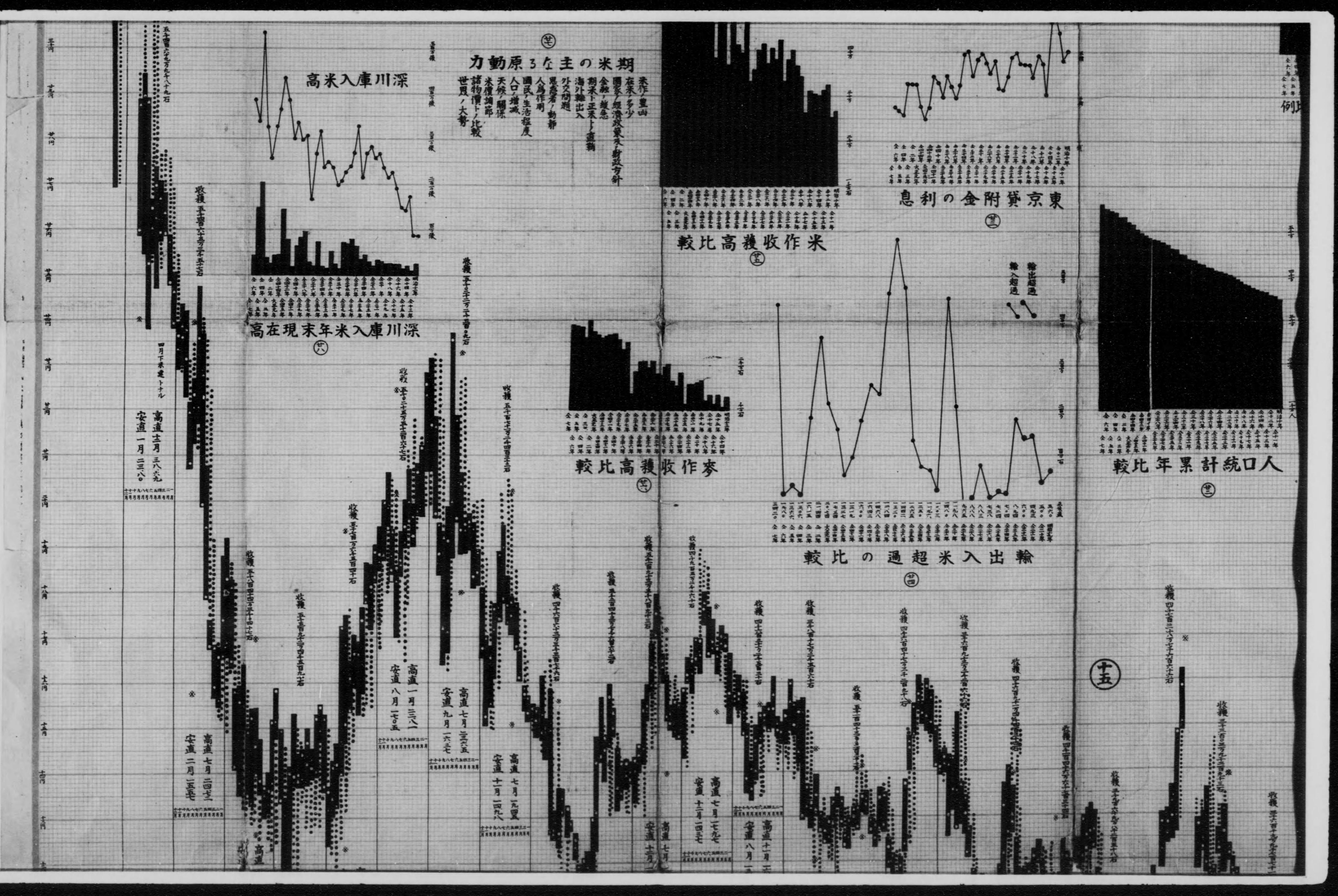

引所株式毎月高低
十割 九割 八割 七割 六割 五割 四割 三割 二割 一割
公債通貨及ビ主要株式
東株 八
東株 六
東株 七
東株 十二
東電
東株 九
公債
郵船
東株 次年 東貴 本金
明治十年 至公二年 金録公債七分利
自公三年 至公四年 整理公債五分利
自公四年 至六年 同 五分利
明治十年 二十万円
明治十年 二十万円
明治十年 二十万円

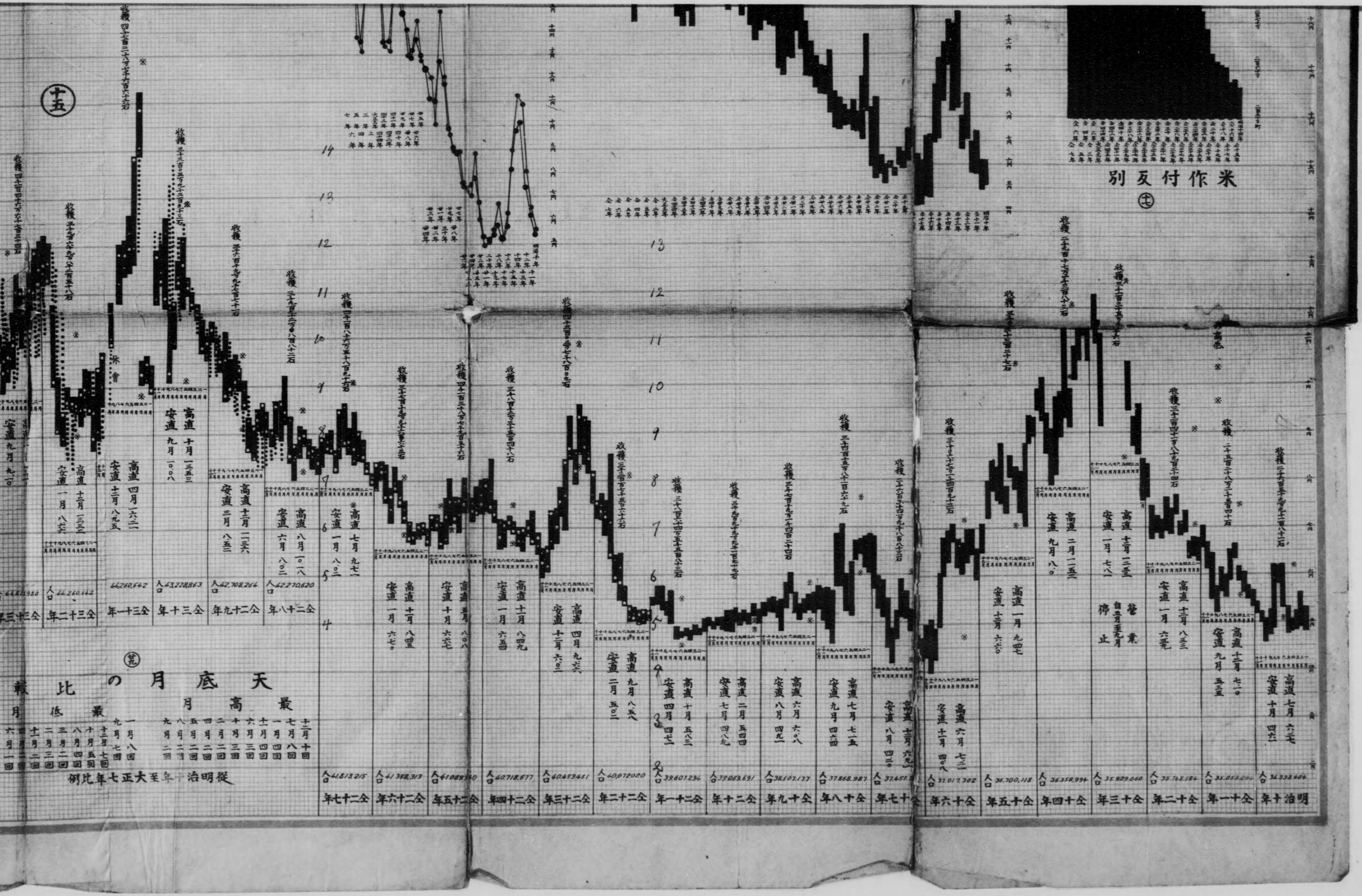

7
6
5
4
3
2
1
44
43
42
41
40
39
38
37
36
35
34
33
32
31
30
29
上
公
二百円
四百円
中間

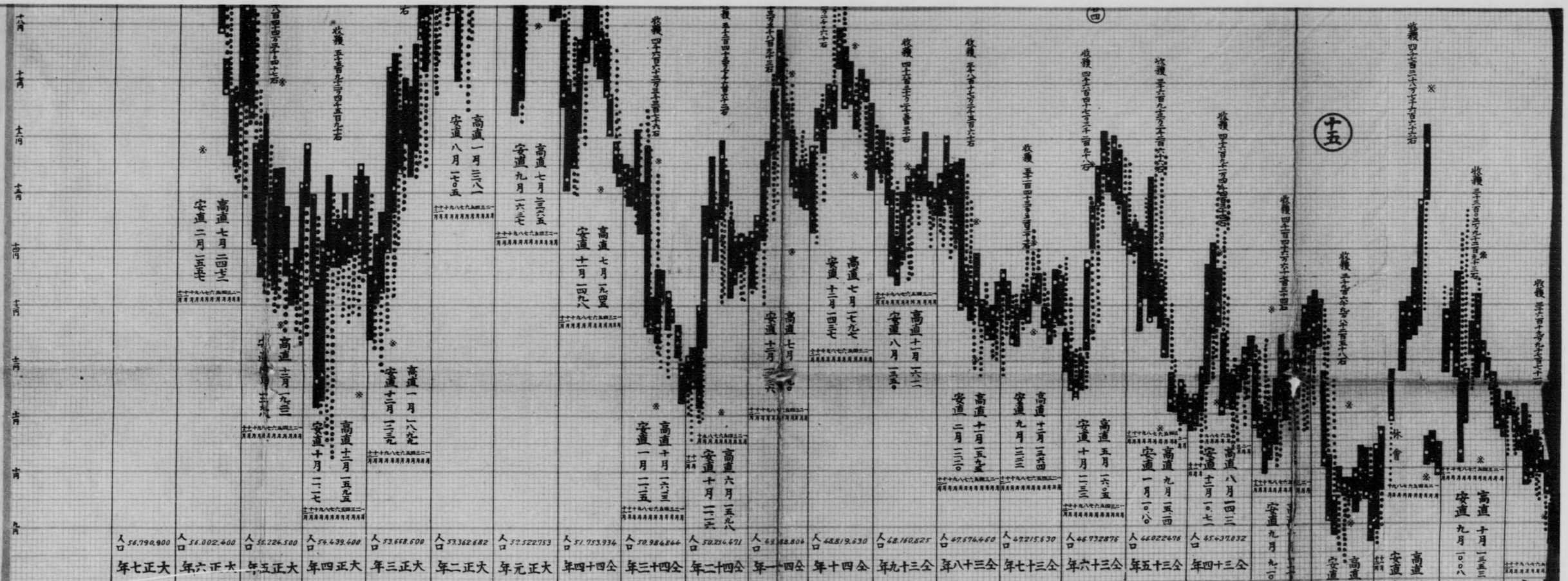
通貨及主要株式高低
東株 八
公債 九
通貨 十
貿易輸出入超過額 十一
開戰以來物價騰貴割合
日本銀行調査の物價指數に依る
人口一人に對する米作收穫比例
東電 十二
郵船 十三
紡績 十四
米作一反歩の收穫高

期米の主なる原動力
米作豊凶
在米ノ多少
國家ノ經濟政策及財政方針
金融ノ緩急
期米ト正米ト連鎖
海外輸出入
外交問題
思惑者ノ動靜
人爲作用
國民ノ生活程度
人口ノ增減
天候ノ關係
米價調節
諸物價ト比較
世界ノ大勢
深川庫入米高
東京貸附金の利息
米作收穫高比較
輸出超過
輸入超過
例比


人口一人に對する米作收穫比例
正米及定期米の高低比較
正米
定期
同直
人口統計累年比較
正米及定期米の年足比較
何も月の平均直を以て高低とき
米作一反歩の收穫高
米作付反別
東
西
收穫 四十七百三十六万六千六百六十六石
收穫 三十三百三十九万七千四百七十三石
收穫 二十九百十七万七千二百八十八石
收穫 二十七百十七万七千二百七十
收穫 四十七百四十六万六千六百六十四石
收穫 二十九百十七万七千二百八十三石
收穫 二十七百十七万七千二百八十三石
十五
十四
十三
十二
十一
十九
十七
十六
十八
十二
十一
十九
十七
十六
十八
十五
十四
十三
十二
十一
十九
十七
十六
十八
十五
十四
十三
十二
十一
十九
十七
十六
十八
十五
十四
十三


深川庫入米高
深川庫入米年末現在高
米作豊凶
在米ノ多少
國家ノ經濟政策及ノ財政方針
金融ノ緩急
對米ト正米トノ直鞘
海外輸出入
外交問題
思惑者ノ動靜
人爲作用
國民ノ生活程度
人口ノ增減
天候ノ關係
米價調節
諸物價トノ比較
世間ノ大勢
期米の主なる原動力
米作收穫高比較
東京貸附金の利息
輸出超過
輸入超過
輸出入米超過の比較
麥作收穫高比較
人口統計累年比較
例比
高直 七月 二四三
安直 二月 三五七
高直 七月 一九四
安直 十一月 一四九八
高直 七月 三三六五
安直 九月 一六三七
高直 一月 三八一
安直 八月 一七五五
高直 七月 一七九七
安直 十二月 一四三七
高直 十一月 二三
安直 八月 一三
高直 三月 三八六九
安直 一月 二三八〇
四月下旬建トナル
收穫 五千四百六十五万九千八百九十九石
收穫 五千四百六十五万六千五百六十七石
收穫 五千三百六十五万四千五百九十七石
收穫 五千三百六十五万四千五百九十七石
收穫 五千三百六十五万四千五百九


十五
米作付反別
天底月の比較
最高月
最低月
從明治十年至大正七年比例
明治十年 人口34,338,404
年一十公 人口35,053,294
年二十公 人口35,768,584
年三十公 人口35,929,060
年四十公 人口36,358,994
年五十公 人口36,700,118
年六十公 人口37,017,302
年七十公 人口37,451,3
年八十公 人口37,868,987
年九十公 人口38,507,177
年二十公 人口39,069,691
年一十二公 人口39,601,234
年二十二公 人口40,072,020
年三十二公 人口40,453,461
年四十二公 人口40,718,677
年五十二公 人口41,088,340
年六十二公 人口41,388,313
年七十二公 人口41,813,215
年一十三公 人口42,270,620
年二十三公 人口42,708,264
年三十三公 人口43,228,863
年一十三公 44,250,642
年二十三公 人口44,260,142
年三十三公 44,881,950



趣旨

抑も吾人が日常最も留意を要する点は経済界の状態なりとす而して経済界の消長は延て各自一般の生計及営業上に波及し其影響を受くること鮮少ならざれば盧世上の急務として常に財界を透察すること最も肝要なり財界を観察するには先づ期米及株式の騰落を以て尺度となすの外途なかるべし其騰落の原動力は一二に止らずして種々ありと雖も就中一時的動揺を起すもの多くして其眞相を現はす原動力は期米に在りては米作の豊凶株式に在りては會社の内容如何に帰するを論を俟たざるなり然れども経済界の変調も亦相場の眞相を出現する淵源たるものと云はざるを得ざるなり期米株式の騰落は財界消長の先駆たること一般の認識せらるゝ所にして其騰落は財界の尺度たる本領を失はざるなり之れを見んとし之れを識らんと欲せば本表に依るに如かざるなり本表は期米株式綿絲の高低にして總て罫線にて表はし其騰落に関係深き諸種の統計を網羅し以て對照上の資となしたり而して相場の高低及諸統計の對照を試るに数字の行列は既に古代的にして今日の如き激務の時勢に適せざれば之れを圖表となし罫線によりて示すを最も現代適切の要求ふりとす如斯二十八種の諸表を求むること能はざる古今唯一の斬新なる参考表と信ずるなり幸に斯界を裨益するをゝうは作者の光栄とする所なり

注意

一、本表ハ東京定期米及諸株式綿絲棉花ノ高低ニシテ總テ先限ヲ罫線ニテ現ハシタルモノナリ、本表ヲ類別スレバ上ノ部ハ綿絲棉花中央ハ東株ノ毎月高低ヲ主トシ主要株式ノ毎年高低及公債通貨貿易輸出入起過額等ナリ、下ノ部ハ東京定期米毎月高低並ニ期米ニ関聯浅カラサル諸種ノ統計ナリ、而シテ東株ハ株式取引所創業以来今日ニ至ル毎月ノ高低ニレ値納會値公株ノ利益配当率増資年度等ヲ詳カニシ期米ニ在ツテハ明治十年以降今日ニ至ル毎月ノ高低生値納會値及期米一代ノ最終高低等ヲ精密ニ現ハシタルナリ（期米代トハ先限ヨリ当限若クハ中限ニ至ル期間ナリ）

二、東株トハ東京株式取引所株式・東電トハ東京電燈株式會社株式・郵船トハ日本郵船株式會社株式・鐘紡トハ鐘淵紡績株式會社株式ヲ謂フナリ

三、東株毎月高低ノ先限ヲ中限若クハ当限ヲ現ハシタリ期米ハ毎月高低線両端實ハ其端ニ点線ヲ施シタルハ期米一代ノ最終高低ナリ、

四、他行セル罫線ヲ黒米ニ色別シタルハ線限ヲ鮮明ナラシムルガ為メナリ㊀貿易輸出入超過額下㊀輸出入米超過ノ比較ニ於テハ黒ヲ入超米ヲ出超トナシタリ㊁及㊂ノ比較表ハ米正米ノ黒ヲ期米トシテ表ハシタリ綿絲ノ米線罫線ハ年別月別ヲ明カナラシムルガ為メナリ

五、本表両端ニ記入シタル如数字ハ米價黒米算用数字東株月高低價格米算用数字公債其他主要株式毎年高低ハ横格ヲ示ス数字ニシテ他ハ通貨及貿易輸出入超過額ハ割二割三割三割株利益配当率ハ標記ナリ

六、各統計表ハ米作収穫高ハ古場及ビ朝鮮ノ他ヲ除キタル計上セリ

七、東株線罫ハ毎月高低ニ於テノ〇ハ生レ値△ハ納會値ニシテ生レ値納會ヲ同一値ナル時ハ◎ナリ

八、綿絲棉花東株毎月高低ハ一限ヲ円ト為シタルガ故ニ半目ハ円ニナリ期米毎月高低ハ限ヲ銭ト為シタルガ故ニ半目ハ五銭ニシテ以下ハ切捨ナリ

九、本圖表ハ大蔵省統計年報及ビ商務省統計表國米市場ノ調査海外貿易表日本銀行調査表等ヲ参考シ東京株式取引所ノ統計其他正確ナル各方面統計ヲ基礎トシテ編纂シタルナリ

十、初版再版大正六年十二月二十五日印刷大正六年十二月二十九日發行

初版 大正六年十二月二十五日印刷
大正六年十二月二十九日發行
再版 大正七年十二月七日印刷
大正七年十二月十二日發行
三版 大正八年四月二十五日印刷
大正八年四月二十九日發行

版權所有

編纂者 兼發行者 東京市淺草区神吉町四番地 笹本半三郎
發行所 東京市淺草区神吉町四番地 米定期研究會
印刷者 東京市京橋区北槇町八番地 穂苅三治郎
印刷所 公所 厚生堂

大正 8.6.9 内交

終